第四十師団司令部疫給水班履歴

陸軍軍医大尉　荻村恒雄

年月日	概要
	編成完結の状況
	部隊は陸亜代密第七九号に依り第四十師団司令部増加配属要員として昭五、四、二
	中華民国湖南省岳陽県岳州に於て編成完結す。
	行動及其の日附
昭五、四、五	湘桂作戦（第一期）参加
八、八	〃　（第二期）〃
八、九	
二、三、二	
三、二、四	南部奥漢打通作戦参加
三、二、六	
昭三、三、一	三南作戦参加
七、五	
七、九	江西省贛州に集結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、三	南昌集結
九、五	安徽省蕪湖集結
昭二、一、三	安徽省当塗県馬鞍山集結
一、三	南京附近に集結
二、一四	南京市内の清掃に従事
二、一	内地帰還の為南京出発
二、三	上海到着
二、七	上海出発
二、一三	鹿児島上陸
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団司令部の一部署厂

陸軍々曹　畠島喜四郎以下五二名

年月日	概要
昭三、三、一一	軍人佐吳淞に駐留せる新編第大軍再管理要員庁出張に編入せられ兵站勤務に協力勤務中
三、一八	上給内報に接し三月二十日同地出発、同二二日旧市政府に於て携行私の検査終了后、二十四日駆逐艦桐に乗船、上海港出航せり（時の輸送指揮官陸軍少佐仁科境）同二九日、佐世保港に上陸同日除隊召集解除、解産帰せり輸送途途中に於ける事故なし。

1840

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団兵站勤務隊略歴

年月日	概要
昭三、一〇、一七	編成下令
	兵站勤務隊長　真鍋教技
	編成完結
一一、一	中華民国安徽省当塗県馬鞍山に現駐のため蕪湖出発
	馬鞍山到着同地に駐留
昭三、一、三	独立山砲兵第二連隊先発隊を転入せしめらる。
二、九	現駐のため馬鞍山出発
二、一一	南京特別市尭化門出発
二、一四	現駐のため尭化門出発
二、一六	上海到着
二、二三	上海港出発
二、二五	博多港上陸
二、二九	隊召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団歩兵才二百三四連隊略歴

年月日	概要
昭四、六	軍令陸甲才二一号に依り才三十八乃至才四一師団臨時編成下令
八、一	編成才一日
八、七	編成完結
九、一三	軍旗拝授
一〇、六	屯営（愛媛県松山市）出発
一〇、七	香川県坂出港出帆
一〇、一〇	中華民国湖北省武昌上陸
	才二三師団と警備交代連隊本部は湖北省咸寧県上毛坪に位置し蒲山及柳林橋山宗陽県白霓橋附近の警備に従事
一一、一九	連隊本部は上毛坪出発通山県柳林橋に前進す
一二、一三	九宮山及陸水作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭四、三、一	湖北省東南地区の警備に従事
五、四、一四	〃 三次九宮山作戦に参加
四、五	〃 二、三大隊主力宜昌作戦及漢水作戦に参加
四、三〇	
四、五	予南作戦に参加
一三、一〇	
昭五、二、一二	鶴鹿作戦に参加
二、一〇	
三、五	湖北省東南地区の警備に従事
三、六	鶴峰山作戦に参加
六、四	
六、五	湖北省東南地区の警備に従事
六、二〇	
六、二二	長沙作戦に参加
九、二	
九、三	湖北省東南地区の警備に従事
一〇、一二	
昭七、一、三一	湖北省東南地区の〃
二、一	〃 一、〃 二大隊主力 新疆作戦に参加
四、二六	
四、三〇	
七、二五	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭七、七、二六 百、四	湖北省東南地区の警備に従事
七、百、五	警備に地区変更の為咸寧県汀泗橋に移駐、尓后同地附近の警備に従事
七、二三、一八 八、一、二日	大別山作戦に参加
一、二二 一、三二	汀泗橋附近の警備に従事
二、一 三、三一	湖北殲滅作戦に参加
四、一	新警備地湖北省石首県石首及藕池口湖南省華容県華容附近の警備に従事
四、八 四、五	江南地区殲滅作戦に参加
四、一六 六、二五	江南殲滅作戦に参加
六、二六 百、五	本作戦に於て第三大隊は歩兵第二百三大隊主力と共に小柴支隊となり軍司令官より感状を授与さる
百、一八 昭九、一、百	石首藕池口華容、附近の警備に従事 常德殲滅作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五、一、一一 四、二八	石首、獨泄口軍營附近の警備に従事
四、二九 八、八	湘桂作戦第一期に参加 本作戦に於て左記の者軍司令官より伍人感状を授与さる。 探山嶺附近の戦斗　第十一中隊　陸軍少尉　町田　完 〃　陸軍兵長　亀井豊二 〃　陸軍伍生　中岡光芳 上等兵
五、八、九 一三、一三	湘桂作戦第二期に参加 本作戦に於て第一大隊は桂林攻略に際し軍司令官より感状を授与さる。
昭五、一三、一四 一六、二七	南部粤漢打通作戦に参加 本作戦に於て鉄道及衛工物占領の挺身部隊として左記の如く夫々軍司令官より感状を授与さる。 部隊感状　甲挺身隊　第一大隊 〃　丙　〃　第二大隊 伍人感状　第二大隊本部　陸軍伍生伍長三浦正路

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、二、二八
〃 五、二七

廣東省樂昌県坪石及樂昌附近に在りて鉄道術工物の確保並に同地附近の警備に従事

〃 五、二八

廣東省南方地区の確保及三南作戦に参加

八、一六

零陵江西省南昌県攪下鳳に於て、軍資奉焼す

兵力

内地除隊　三〇五六名
現地〃　一〇一〃
死亡　六四一〃
入院　四九二〃
転属　一七四五〃
生死不明　八九〃
残留（広東南朗）　二九〃

昭三、八、一九

第四十師団歩兵第二百三四連隊長　陸軍大佐　西川俊元

終戦後の状況

江西省南昌県攪下鳳出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、二四	江西省南昌県南昌陸軍
八、二八	江西省九江
八、三〇	
九、一九	安徽省蕪湖県鎮湖
一二、一六	
昭二、一二、七	〃 当塗県当塗山
二、九	
三、一〇	〃 南京に於て南京市政府より警察二部隊徴用服務
五、六	
五、七	江蘇省南京出発
五、九	〃 上海着

左の如く分離帰還す

第六中隊	五、一五 上海出帆
	五、二一 鹿児島上陸
第三大隊（三中尺）	五、一七 上海出帆
	五、二四 鹿児島上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十二中隊
第三飛行隊 中隊
九、一八 上海出帆
九、二四 鹿児島上陸

第一大隊
第二大隊（東京）
九、一八 上海出帆
九、二四 博多上陸

直轄部隊
歩砲中 通信中
行李班 衛生班 東海小

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団歩兵第三三九連隊第一大隊略歴

大隊長　陸軍大尉　佐々木春隆

年月日	概要
	行動の概要
昭三、五、一三	東船内敵受領、船舶の関係に依り連隊主力と分離す。
	主力（八中、一中、二中、四中）は八五二四名輜重輜材
	一部（三中、二機中）は三〇一名　海防艦八七号
	計　八二九名
五、一三	一五〇〇両艦同時上海港出発、海路平穏にして死者なく患者二名（胆部性疾患）発生せる外異状なく五、一九　一五〇〇両艦共鹿児島港に上陸、患者二名は速かに国立病院に入院す。
	本大隊將校以下八二二名復員式終了後夫々除隊召集解除帰郷せり。
	後勢整理者　陸軍大尉　佐々木　春　隆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍中將　合志明雄
陸軍書記　仁尾利文

は復員式終了后九月二〇日一七〇〇鹿児島出発、
〇四〇五　二日市復員本部に出頭書類検査終了后関係者書類提出
係員召集解除夫々帰郷せり

五、二一
五、二二

昭四四、六、三〇　軍令陸甲第二一号に依り編成下令
歩兵第二百三十九連隊長陸軍大佐　梨岡寿男
八、七　編成完結
九、一三　軍旗拝受
梨岡大佐宮中に参内し軍旗拝受優渥なる勅語を賜う。
一〇、七　綾川県基本駐屯地に就く。
一〇、八　香川県坂出港出発
一〇、一五　中華民国関北省武昌に上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二一、二	湖北省咸寧県横溝附近に駐屯
二二、一三	第一次九宮山作戦に参加
二二、一八	
二二、一九	第二次　〃
二二、二二	
二二、二四	第一次陸水作戦に参加
二二、二二	
昭五、一、四	第二次　〃
〃　一、二三	
四、二五	宜昌作戦に参加
〃　七、二五	
昭六、一、二二	予南作戦に参加
〃　二、一六	
三、一	補歩兵第二三五連隊長陸軍大佐仁科譽
九、一	第一次長沙作戦に参加
一〇、一四	
二二、一七	第二次　〃
一二、二三	
四、五	第二大隊浙赣作戦に参加
九、三〇	
一二、二〇	第二大隊大別山作戦に参加
昭八、一、三〇	
二、九	湖北孝感作戦に参加
二、一六	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭八、四、二二	湖南省臨湘県桃林に移駐
五、二四	江東地区反掃作戦に参加
六、一七	
六、五	補歩兵第一三五連隊長陸軍大佐　堀内勝身
五、一五	湘桂作戦に参加
一二、一二	
昭一〇、一二、一三	南部粤漢打通作戦に参加
二、二八	
三、一	三南作戦に参加
七、一五	
七、六	英湖附近泉中の為の転進
八、一七	
八、一七	江西省南昌県新淦附近に於て給戦の大家を拝し謹みて軍旗を奉焼し奉還し奉る
八、二二	〃　〃　出発
九、二	安徽省当塗県当塗到着駐留
一一、二三	〃　采石鎮に駐駐
昭二、二、八	江蘇省江寧県上元門に移駐
五、七	内地帰還の為南京出発
五、一七	聯隊主力上海港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二、五、二〇　第一大隊鹿児島港帰着

昭二、五、二〇　〃　に於て復員式を挙行す

五、二三　連隊主力南京港帰着

連隊主力南京に於て復員式を挙行す

人員

現地隊隊	一一五名
内地隊隊	三〇六六名
死亡	一六〇八名
入院	四三五名
転属	一一六九名
生死不明	八一名
残留者	一〇名
処刑者	一名
合計	六四八五名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四〇師団歩兵第二三六連隊略歴

連隊長　陸軍大佐　小柴俊男

年月日	概要
昭一四、六、三〇	軍令陸甲第二一号に依り第四十師団並に函館第十一師団編成（改正）下令
八、七	編成完結
九、一三	初代連隊長　陸軍大佐　亀川良夫
一〇、九	連隊長亀川大佐宮中に参内し軍旗を拝受優渥なる勅諭を賜ふ
一〇、一九	中支派遣のため坂出港出発
一一、三	中華民国湖北省大冶県石灰窯に上陸
一二、一三	大冶附近の警備を第三三師団歩兵第二一四連隊より継承
一二、二三	第一次九宮山作戦に参加
一二、二四	陸水作戦に参加
一二、二八	一部（連隊附加川中佐の指揮する二大隊）を以て宜昌作戦に参加
一五、四、一二	
一六、六、二〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四二三	第二次九宮山作戦に参加
四二八	
八八	亀川支隊（連隊長亀川大佐の指揮主力（大隊半欠）を編成し清溪河附近の整
一三三三	備此の間渓水作戦（自一八二四 至一八三〇）に参加
昭五一二〇	一ヶ大隊を以て予南作戦に参加
五一五	
二二五	〃　漢口市内の警備
一三二四	
五九四	主力（一ヶ大隊欠）を以て第一次長沙作戦に参加
五一五一六	
五一三一七	第二次長沙作戦に参加
五一一三	陸軍大佐今井鎧治郎歩兵第二三六連隊長に補せらる。
四三〇	今井支隊（連隊長今井大佐の指揮する四大隊基幹）を編成し浙贛作戦に参加
七二三	
八一五	湖北省蒲圻県蒲圻に駐屯第六師団より蒲圻地区の警備を継承す。
一三二一	陸軍大佐小柴俊男歩兵第二三六連隊長に補せらる。
昭一八一一二八	一ヶ部隊を以て大別山作戦に参加
一一二一	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭八、三、一	主力（一大隊缺）を以て江北殲滅作戦に参加
三、二〇	
四、一	一大隊を以て江南地区掃蕩作戦に参加
四、五	
四、一九	小柴支隊（重隊長小柴大佐の指揮する主力（二大隊缺 歩/336 歩/245 40P 屋一星
三、二〇	弾）を編成し江南殲滅作戦に参加
	本作戦の功に依り第十一軍司令官の感状を授与せらる 右当時二隊を以て江
七、一	東地区反乱 作戦（自五月二三日～至六月十七日）に参加
	軍令陸甲第三六号に依る編成改正を完了湖南省湘潭県長安に駐屯同地附近の
	警備に任ず
一一、一五	一大隊を以て第德殲滅作戦に参加
一二、二二	
昭五、四、二六	湘桂作戦第一期に参加
八、八	
八、九	〃 第二期 〃
一二、一三	
昭五、一二、一四	桂林攻略戦の功に依り第十一軍司令官の感状を授与せらる
一、二〇	
一二、二〇	南部粤漢打通作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、四、二〇	廣東省西南地区（台山県台山附近）の確保に任ず
五、三、一	
六、一	三南作戦に参加
七、六	
七、七	南昌に向う共動作戦に参加
八、一三	
八、一六	停戦の詔勅を拝す
八、一七	江西省豊城県丁家（三江口東南四粁）の地に於て軍旗を奉焼す
八、一八	復員下令
昭三、九、一二	内地帰還のため上海出帆
九、一九	山口仙崎上陸

留守名簿上の総員	五三九四
戦死	一三九
戦傷死	三三
戦病死	四八四
計	六九二
生死不明者	二六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内訳	
所在不明者	四
転出者	一〇九七
入院患者	三四三

除籍召集解除者	
現在員	三一六二
先行帰還	一五
現地除隊	九四
計	三二七二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団工兵隊略歴

工兵隊長　陸軍大佐　相徳定象

年月日	概要
昭四、六、三〇	軍令陸甲第二二号に依り第四十師団編成下令
八、一	工兵第四十連隊編成完結
	連隊長陸軍中佐　鴨沢頂二郎
一〇、七	支那派遣のため坂出港出発
一〇、一五	湖北省武昌県武昌上陸
一〇、二九	湖北省咸寧県貨勝嶺着
一一、一三	第一次九宮山作戦参加
〃一九	
一二、一九	陸水作戦参加
一二、二九	
昭五、四、二三	第三次九宮山作戦参加
四、二八	
四、一五	宜昌作戦参加
六、二六	
一二、一二	予南　〃
昭六、六、一九	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、一	蘭溪作戰參加
三、四	
六、一一	萬洋山作戰參加
六、一七	
九、二	第一次長沙作戰參加
一〇、一一	
昭一一、一五	第二次　〃
一二、二六	
九、九	浙贛作戰參加
一〇、三三	連隊長更迭 陸軍中佐　五十嵐　左七
八、七	湖北省蒲圻県蒲圻駐屯
昭一八、二七	江北殲滅作戰參加
三、三五	
四、二六	江南殲滅　〃
六、一二	
九、一	軍令陸甲第三六号に依り編成改正下令
	隊長更迭 陸軍大尉　渡辺正則
七、一	第四十師団工兵隊編成完結
七、七	湖北省岳陽県令水鋪駐屯

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭九、五、二〇	常德殲滅作戰參加
一、三	隊長更迭陸軍大尉　相德定泉
四、二九	湘桂作戰（第一、二期）參加
一二、一三	
昭一〇、一、一四	南部粵漢打通作戰參加
一二、二八	
四、二〇	軍令陸甲第一八号に依り編成改正下令
四、三〇	編成完結
五、四	三南作戰參加
七、九	
八、一四	停戰詔書発布
八、一八	復員下令
九、一五	安徽省蕪湖県蕪湖に集結
一〇、三〇	〃　当塗県馬鞍山に移駐
昭一一、二、一〇	江蘇省南京に移駐
五、八	上海集結
五、一六	帰還の為上海港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六月

六一七

仙崎港上陸

復員完結

總員　七六四名

内地隊隊　五三九〃

現地隊隊　五〃

入院　三三〃

転属　一〇八〃

死亡　六七〃

生死不明　九〃

逃亡　三〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団通信隊畧歴

陸軍少佐　高岡欣一

年月日	概要
	部隊名 第四十師団通信隊 部隊長官氏名 陸軍少佐　甲川武三 〃　大尉　庄子長孝 〃　大尉　国武二郎 〃　大尉　山崎忠一 〃　大尉　河戸傳 〃　少佐　高岡欣一 編成完結の状況 昭和一四年軍令陸甲第二一号に依り編成下令同年八月七日善福寺舎内丸舎に於て左の如く編成完結す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

行動及日時	
昭五、一〇上旬	中華派遣の宜昌出港出帆同月中旬中華民国湖北省宜昌に上陸同地附近隷下部隊と師団司令部間と有無線連絡を担任す。
二、	宜昌成峯通山大冶各県地区の警備を第三、師団と交代終承三個信隊は成峯に位置し成峯師団司令部を通信中枢として大冶　柄林橋馬橋、横溝橋　葛店地区の各隷下部隊との有無線連絡を実施す。
三、九	宮山作戦に参加し中枢を柄林橋に推進す
五、六	第二次九宮山作戦及陸水作戦に参加す。
四、大	主力を以って宜昌作戦に参加す
六、二、一三	に至る岡予南作戦に参加す。
九、百	第一次長沙作戦に参加す
一三、七、一	第二次　〃
昭七、四、百	一部を以て浙贛作戦に参加す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭八、一、一三	一部を以て大別山作戦に参加
二、五	主力を以て江北一部を以て江南作戦に参加す
二、一	軍令陸甲第三六号に依り一部編成改編さる
七、	独立混成第十七旅団と岳洲長安桃林地区の警備を交代し更に臨利石首華容地区の警備に任じ、通信隊は之等各地区隷下部隊との有線線連に任ず
五、一〇	一部を以て常德作戦に参加す
一三、	
五、四、	全力を以て湘桂作戦第一期第二期及南部粤漢打通作戦に参加す
昭一〇、四	広東西南地区に集結同地附近の警備及隷下部隊の有線線通信網を構成す
、六、	南作戦に参加同年七月韶州を出発、贛江に沿う地区を北上し南昌南京地区に
七、	集結、
八下旬	南昌出発九江及揚子江左岸地区を至て、
昭三、二、一	南京に移駐同地に於て守備に服す
四、六、	内地帰還の為南京出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二八

五、二九

上海港出帆

佐世保上陸

英　力

所属総員　三九九名

入院患者　二七名

生死不明　三名

所在不明　一名

帰　屋　九四名

後員時に於ける人員　二三〇名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団輜重隊略歴

年月日	概要
昭五、六、三〇	軍令陸甲第三号に依り輜重兵第四十連隊編成下令
八、二	初代連隊長に陸軍輜重兵大佐角和善則補せられ善通寺師管内に於て左の編成完結す。
	連隊本部
	第一中隊
	第二中隊
	第三中隊
一〇、七	中国旅団のため坂出港出発
	一五日湖北省武昌上陸
一〇、三〇	湖北省咸寧県官埠橋到着
	連隊本部、第二中隊は官埠橋に第三中隊を咸寧に位置せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭天・六・一	聯隊長統率の下主力を以て予南作戦に参加す。
六・二九	兵站自動車一六六中隊転属編入し、第四中隊を編成、威寧に位置せしむ
八	初代聯隊長陸軍大佐角和善助陸軍輜重兵学校附に補せられ後任として
八・二	陸軍中佐森川啓宇着任す。
八・三	第一次長沙作戦に参加す。
昭七・一二・一二	第二次　〃
昭天・一二・二八	湖南省新塘県長湖に於て聯隊長湖に於て聯隊長陸軍大佐森川啓宇戦死す。
〃七・一	後任聯隊長として陸軍中佐川崎吉次着任す。
昭八・二・一	聯隊長統一下主力を以て江北殲滅作戦に参加す。
三・二	
九・一	軍令陸甲第三六号に依り編成改正下令
七・一	編成完結
	第四十師団輜重隊と改称左の通編少せらる。
	部隊本部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一中隊

部隊長

第二中隊

第三中隊

七、四　湖南省岳陽県岳州附近に駐屯す。

八　部隊長　陸軍大佐　川崎吉次

昭二、一二、一三　陸軍輜重兵学校附に補せられ後任として陸軍中佐元吉猶翔著任す。

昭二、一二、二八　部隊長統率の下主力を以て湖南作戦に出動す。

二、二一　南部粤漢打通作戦に参加す。

二、二八　部隊長陸軍中佐元吉猶翔函守第五五師団司令部附に転任す。

三、一　後任として陸軍少佐　坂橋勝著任

昭二〇、九、一　廣東西南方地区に集結同地附近の警備に任ず。

六、三〇　三南作戦参加

七、　南昌南方地区に集結す。

八、一五　同地に於て終戦の大命を拝受す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、一八	軍令陸甲第一一大号に依り復員下令江西省南昌県前湖乃出発
	九江及湖子江北岸地区を経て九、一九安徽省蕪湖到着同地駐留
一〇、八	当隊県蕪湖鎮に移駐
昭一〇、一二、一五	京秣公路補修作業に従事
一二、一七	
昭一〇、一二、	中口陸軍第七四軍第一五一師に依り武装解除さる。
昭一〇、一二、九	江蘇省南京に移駐す
一二、九	漢中路、粟悉路及卅路一補修を担任し作業に従事す。
四、三〇	部隊解厂
昭一二、五、八	復員のため南京出発
五、一〇	上海到着
五、一七	上海より乗船、
五、二四	鹿児島港上陸
五、二四	復員式挙行
	同日除隊、召集解除

中支内地

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団野戦病院略歴

年月日	概要
昭一四、六、三〇	軍令陸甲第二一号に依り臨時編成下令
一二、一	第四十師団第一野戦病院編成着手
一二、一	病院長　陸軍軍医少佐
一二、六	編成完結
一二、九	香川県坂出港出発
一二、一四	中華民国江蘇省南京到着
一三、九	湖北省武昌着
一三、一〇	〃　咸寧県咸寧着
一三、一一	咸寧第四十師団第一野戦病院開設
一三、一一	九宮山作
一五、二八	主力宜昌作戦に参加
昭五四、二九	
七、三一	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一二、二	陸軍々医中佐　高野瑞枝 補兵江陸軍病院長	
〃	第二四師団歩兵第　　兵隊附陸軍医少佐　松山啓助 補第四十師団第一野戦病院長	
昭天、八、三一 五、一六	主力第一次長沙作戦に参加	
昭七、一、二三 七、四、二九	〃　第二次　〃	
昭八、一、二〇 一、一九	第一次第二次長沙作戦に於ける奮斗に依り第四十師団長より賞詞を授与さる。	
一六 二、二六	主力大別山作戦に参加	
四、一四	主力江北殲滅作戦に参加	
四、二五 六、一九	一部を石首地区敵に配属	
四、二二	一部江南殲滅作戦に参加	
四、二五	主力湖南省岳陽県岳州に駐屯 岳州第四十師団第一野戦病院開設	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一	勅令改正発結第四十師団野戦病院と改称
一〇、三 二、二六	一部常徳戦作戦に参加
昭九、四、一五	岳州第四十師団野戦病院閉鎖
四、二四	岳州出発
四、三〇	湖北省石首県調査口附近に集結
五、一〇	陸軍医少佐　松山悠助
	補充陸軍病院
	第十九師団軍医部々長　陸軍軍医大尉　福田義美
	補第四十師団野戦病院長
五、二六 二、一三	湘桂作戦に参加
八、二八	陸軍々医大尉　福田義美
	補第四十師団野戦病院附
〃	第四十師団野戦病院附、
	陸軍々医少佐　関谷重幸

1873

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一三、一四	第十四師団野戦病院長
二、二八	南部粤漢打通作戦に参加
四、二〇	広東省新会県江門附近に結集
六、一	三南作戦に参加
七、九	江西省贛結集
七、七	贛州出発
八、一三	江西省南昌南方地区に集結
八、二六	終戦の詔書拝受
八、三一	南昌南方集結地出発
八、二八	九江附近に集結
八、三一	九江出発
九、一九	安徽省蕪湖に集結
一〇、三	陸軍々医少佐　岡谷亩幸
	第十四五九兵站病院附

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〃	第四十師団野戦病院附
	陸軍々医少佐　福田義美
	補第四十師団野戦病院長
昭三、二、九	安徽省望江県馬鞍山に集結
〃 三、二、九	南京附近に集結
五、三	内地帰還の為上海に集結
五、七	上海出発
五、一三	鹿児島上陸
〃	復員完結

総兵力　一〇五五名

死	七	八五名	軍医　少佐　一名
入院		九〇名	〃　大尉　一三名
転院		一四〇名	〃　中尉　一一名
生死不明		一三名	主計　中尉　一名
現地除隊		一五名	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

差引内地徙置者

七一二名　軍醫少尉　一三名

主計少尉　二名

紅生少尉　一名

計　四七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十師団病馬廠略史

年月日	概要
昭和六三〇	軍令陸甲第二一号により編成下令陸軍獣医少佐池田理兵衛第四十師団病馬廠長に補せらる。
一一、六	編成完結
一一、九	中支派遣の為坂出港出帆
一二、七	武昌上陸
一二、一〇	湖北省咸寧県官埠橋に到着同地に駐留
一三、	主力を以て第二次九宮山作戦に参加
昭五、五、四	主力を以て宜昌作戦に参加
昭五、八、一	病馬廠長陸軍獣医少佐池田理兵衛支那派遣軍司令部附に補せられ陸軍獣医大尉昼正廣第四十師団病馬廠長に補せらる。
九、一 一〇、一四	主力を以て第一次長沙作戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一六、一二、一七	主力を以て第一次長沙作戦に参加
七、一、三三	主力を以て江北、江南作戦に参加
昭一六、二、九	湖南省岳陽県岳州に駐屯
三、三、六	病馬廠長陸軍獣医大尉星正通特別志願将校学生として陸軍獣医学校に入校を命ぜられ陸軍獣医大尉中山辰巳第四十師団病馬廠長に補せらる。
九、	主力を以て第一期湘桂作戦に参加
一一、一二	〃 第二期 〃
四、一九	南部粤漢打通作戦に参加
八、八	
八、九	三南作戦に参加
一二、一三	
五、一二、一四	終戦の大命を拝受
二、二八	
三、一	英湖に駐屯
七、一五	
八、一五	安徽省当塗県馬鞍山に駐屯
九、一五	
二、一	南京に移駐
昭三、二、一〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、七　帰国の為南京出発
五、一三　上海出帆
五、一九　鹿児島に上陸
復員完結

兵力

摘要	内地隊	現地部隊	入院	生死不明	編成以来死亡者	復員時総員	復員定員
	八四	二	四	二	九	九二	六五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十一師団司令部要員

陸軍中將　小倉藤次

年月日	概要
	編成完結の状況
	部隊編成の概要
	編成下令
昭三、三、二五	軍令陸甲第十八号
	編成担任官
	第二十軍司令部
	編成地
	中華民国湖南省衡陽県衡陽及広東省曲江県韶関
	兵員着出発隊
	第一軍　第二十軍　第二三軍
	編成完結
昭三、四、二〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

行動の概要及其の経過

編成完結より転進準備迄

八月二三軍隷下に入り北部広東省及南部江西省の警備を第四師団より継承、司令部は韶関に位置す、師団の部署左の如し

贛州地区　歩兵第九五旅団

樂昌地区　歩兵第九五旅団

韶関地区　師団直轄部隊

六月中旬

南京方面に転進すべき命令を受け左の如く準備し七月二九日の時独立歩兵第八旅団に警備を移譲す

師団司令部、歩兵二大隊、直轄部隊七月九日廣東省昌原坪石衛附近に集結

歩兵第九五旅団（歩兵大大隊一第四十師に配属）附近

歩兵第九十六旅団（歩兵一大隊欠）臺第第二三軍直結とし韶関（韶関附近警備に残置

転進開始より安徽省蚌埠及南京到着迄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一〇

1、京漢鉄道に沿い前進を開始し八月十五日湖北省咸寧県咸寧に於て停戦命令を受領す。八月二十日咸寧附近出発大冶―九江―湖口を経て九月十日安慶に到着す。

2、歩兵第九十五旅団主力を九月三日江西省九江県九江に於て掌握す。

3、歩兵第九十六旅団主力を十日二九日安慶に於いて掌握す。

安慶に於ける状況

所団は第六軍命令に基き九月十三日十二時を以て独立歩兵第六旅団より警備を継承し司令部を安慶に位置せ

同時に左記部隊を指揮下並に麾下に加う。

第八十四兵站地区隊

安慶憲兵分隊

自動車第二十九連隊第三中隊

野戦電信第八中隊

第六軍無線電信小隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十一飛行場中隊
第六九飛行場中隊
陸軍重結部安慶支部
第二船舶輸送司令部南京支部安慶出張所
昭和輸送材料廠
船舶警備中隊
安慶区海軍連絡部

（以上）

試験解除

九月一五日中国陸軍第四八軍の安慶進駐に伴い其の命令指示に基き準備し十一月一一六日の間に実施せらる。

新形地集結の概況

水路に依り左の如く輸送し昭和二一年三月十八日上海に集結を完了す。

第一次二月二日　安慶出発　上海直航
第二次二月一六日　〃　南京より上海へ列車輸送

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三次 三月四日　突撃出発　上海出発

第四次 三月八日　〃　上海着

上海に於ける行動及帰還状況

一、師団は隷下各部隊より五九〇名を抽出し司令部附として上海東部地区兵站勤務隊を編成残置し爾余の三月二八日～五月十三日間に内地帰還を完了、

二、兵站勤務隊は三月二十二日上海第六兵站の任務を第十一師団より継承し五月二七日仮立屈成第十七旅団に移管、五月三十一日上海乗船、六月六日佐世保上陸帰還を完了す。

内地帰還時主力と分離し後員した一部々隊の略歴は省略す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第五九一大隊略歴

陸軍少佐　北原岩男

年月日	摘要
	編成番号　独水第一七九一部隊
	編成の概要
昭三、二、二五	軍令陸第十八号に依り中華民国江西省大廈県新城に於て編成を完結す。
	部隊行動の概況
	人新城附近の警備
昭三、三、一八	新城附近の警備
五、九	第一師団命令に依り同年二月赣州に前進し同年七月十一日迄赣州周辺の警備に任ず。
七、一一	2、南京への転進及停戦命令
	第百三十一師団の南京への転進に伴い歩兵第九五旅団命令に基き、赣州附近の警備を徴して同地出発、旅団主力と共に南京に向い前進中九江に於て停戦命令を受領す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、九、一〇

九、一三

3. 安徽省安慶附近の警備

行動中安慶附近の警備を命ぜられ、安慶に到着、

前警備部隊独立歩兵第六旅団独立歩兵第二一四大隊より同地附近の警備を継承す。

安慶集結

歩兵第九五旅団命令に基き安慶附近の警備を中口第四八軍第六八師第五百二六団に現戦九月三十日夕安慶城外に集結す。

一〇、六

武装解除

中国第四八軍に依り、安慶に於て武装を解除せらる。

安徽省望江県築堤作業

中口第四八軍命令に基き第百三十一師団命令に依り大隊は一ヶ中隊を編成し築堤第一連隊第一大隊として

の間望江県皖浦湖畔築堤作業に従事

昭三、一二、二六

〃三、二、六

復員の為の行動及復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、三、三　安慶出帆
三、三七　上海出帆
三、三一　南京上陸
三、三一　部隊編成を解き除除す
（司令部解散）

内地除隊者総員

大隊長　陸軍少佐　北原岩男以下　六三〇

兵力

区分 / 官等級	佐官	尉官	准士官 下士官	兵	計	摘要
総員	一	二二	一一七	五五一	六九一	内地帰還六三〇 現地除隊六一
死亡						
行方不明				一九	一九	
入院			一	一四三	一四四	
死亡			三	二五九	二五八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp